

一般情報教育の現状について

國學院大學

経済学部・共通教育センター兼務

高橋尚子

情報処理学会 教育担当理事



大学概要

- 渋谷キャンパス
 - 4学部10学科
- たまプラーザキャンパス
 - 1学部3学科(人間開発学部)

所属	男	女	計	収容定員
文学部	1,409	1,835	3,244	2,760
経済学部	1,622	717	2,339	2,040
法学部	1,458	761	2,219	2,000
神道文化学部	548	270	818	720
人間開発学部	632	811	1,443	1,320
学部計	5,669	4,394	10,063	8,840

2019年度在校生数(人)

卒業に必要な共通教育の単位：抜粋 (H29年度入学から)

科目区分		文学部					法学部	経済学部	神道文化学部
		日本文学科	中国文学科	外国語文化学科	史学科	哲学科			
國學院科目群	神道と文化	2	2	2	2	2	2	2	※1
	國學院の学び								
	日本文化を知る								
	Japan Studies								
汎用的スキル科目群	日本語								
	英語	12	2	4	12	12	8	16	12
	数的推論								
	情報処理	2	2	2	2	2	2	2	2

一般情報
教育

一般情報教育の概要【H29年度入学から】

- 情報処理「コンピュータと情報」（必修・選択必修）2単位
⇒ いわゆる、ICTリテラシー（PCスキルの実習中心）
 - 経済学部・・・必修、1年前期＜3年の進級要件＞
 - その他の学部・・・「数的推論（SPI）」とのどちらかを選択必修
・・・80～90%がコンピュータ授業を履修
 - 開講コマ数と受講生数
昨年度まで前後期計：31コマ（受講生 約1790名）
今年度・・・前期：20コマ（受講生 約1150名）
後期17コマ計37コマ）
- 「情報科学入門」自由選択科目（自然科学群）2単位
⇒ GEBOKの2/3くらいの表面をカバー
（情報倫理・セキュリティ、情報システムあたりがない）
 - 全学部生が自由に選択（講義）

一般情報教育の概要【H28年度入学まで】

- 「コンピュータ技術演習」4科目（選択）
「活用入門」「メディア発信（Web作成）」
「データ処理（Excel）」「シミュレーション（pg）」
 - その他の学部生が自由に選択
 - 経済学部・・・履修不可、専門基礎で同様の科目を履修
- 「情報科学入門」自由選択科目（自然科学群）
 - 講義・・・全学部生が自由に選択
- 全学オープン科目
 - 経済学部にある情報科の教職科目の一部（講義）を供出
- 副専攻科目「情報学の基礎」
 - 経済学部にある情報科の教職科目をセットにして供出

一般情報教育における教職員の構成概要

- 講師
 - 常勤・・・3名（専門1名、非専門2名〈たまプラーザ〉）
 - 非常勤・・・2名（非専門、各キャンパス1名ずつ）
 - 外部委託派遣講師・・・6名（「コンピュータと情報」）
- アシスタント
 - 常勤のクラスはなし
 - 外部委託クラスは、アシスタント講師がセット
- 職員の支援体制
 - 教務部・・・講師・外部委託企業との事務的な対応
 - 共通教育センター・・・配慮が必要な学生や授業運営の問題点など対応
- 教員の確保
 - 非常勤・・・専任教員が探す
 - 外部委託・・・企業や大学等でのコンピュータ実習系の講師経験がある人を選定してもらう

コンピュータ教室の環境

- コンピュータ教室の設備
 - 渋谷・・・60台×4教室、30台×1教室
 - たまプラーザ・・・60台×2教室、30台×1教室<自習用>
- コンピュータ教室の環境
 - Windows10+Office365、SPSSなどは一部教室に導入
- 設備の決定
 - 情報システム課（職員5名）、情報センター委員会が主導
 - センター長は教員（たまプラーザの情報教育担当）
 - インストールソフトとその決定プロセス
必要なソフトは、情報センター委員が集約して対応
 - サポート体制（教員には随時、学生対応はアルバイト）
- LMS
 - K-smapyII（既存製品のカスタマイズ）、昨年前期まではオリジナル
- 自習用のPC<渋谷>
 - 原則1教室を割り当て（開講コマが多いとなし）
 - 自習室1室（30台）、オープンスペース（30台）

一般情報教育のカリキュラム全体の決定・運用

- 「コンピュータと情報」（全学対象・実習）
 - カリキュラム
 - 渋谷とたまプラーザの**教員の合意で決定**
 - 経済学部の特門基礎と、共通教育のシラバスがほぼ同じ
 - 外部委託講師での運用
 - 1学年全員必修と想定し、渋谷では、**60人教室×40コマ**程度の開講が必要
 - E-learningとスクーリングも検討したが、**対面**に決定
 - **授業内容や評価基準を統一**すること、**講師の確保**を優先することから、外部企業での実施を導入
 - ⇒ すべてのクラスの講師名に、専任と外部講師のペアで表記し、**成績の決定は専任が行う**ことで単位認定を可能
- その他の実習科目・・・担当教員が決定・運用（今年度で閉講）
- 「情報科学入門」（講義）・・・担当教員が決定・運用

教材(テキスト)・学生のキャリア支援

- 「コンピュータと情報」
 - これまで経済学部で使用してきたものを継続利用
タイピング、情報検索、メール、文書処理、データ処理、
スライド、演習の例題を中心とし、操作は記載せず、
 - 実習課題(宿題)と期末試験問題・・・クラスごとに、形式
と課す機能は同じで、語句などを変更したものを用意
 - 小テスト(知識テスト)・・・LMSの機能を使ったCBTで、
文書処理とデータ処理ごとに10問3択を実施(内容は全
クラスほぼ同じ)
 - 現在、改訂作業中で、来年度から「アカデミックICTリテ
ラシー」として刷新中
- キャリア支援・資格対策・・・なし
- 「情報科学入門」(講義)・・・なし

現在の共通テキスト

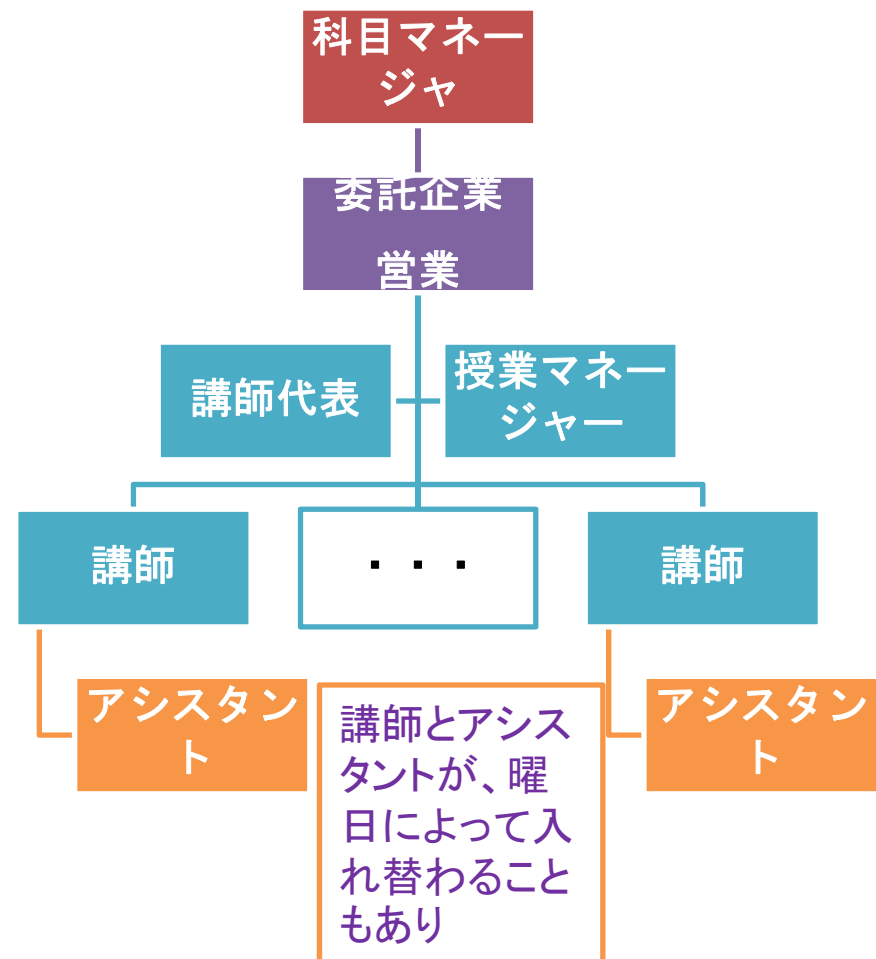
目次

- 1 入力・インターネット編
 コンピューターの基礎演習
 - 2 文書処理編
 文書処理の基礎演習
 文書処理の応用演習
 - 3 表計算編
 表計算の基礎演習
 表計算の応用演習
 - 4 プレゼンテーション編
 スライド作成演習
- ★応用を除く
15回のシラバス、講義内容を
キッチリ決めて進める



外部委託講師授業の授業運営

- 月1回程度ミーティング
 - ⇒ 営業、講師代表、授業マネージャーと
 - 授業の進捗・課題の提出状況など確認
 - 課題・期末問題、採点基準などの確認
 - 欠席・失格者、学生からの問い合わせ状況
 - コンピュータ教室、ソフトなど環境の確認
 - **成績評価の検証と承認**
- メールで随時対応
 - 学生への個別対応メールはBCCでもらう



各担当教員の教育方針の共有方法

- 共通教育全体方針は、教務が決定
- 各科目の方針、内容は科目担当者が決定
- 統一が必要な必修・複数コマ開講は、科目マネージャーが決定
 - 独自科目・・・神道、
汎用スキル科目・・・英語（外部委託）、日本語、体育、
情報（外部委託）、
キャリア科目・・・ライフデザイン（外部委託）
 - 報告書提出・・・前後期
 - 会議・・・年度末1回（開始初年度は2回）

現体制のメリット、デメリット、今後の方針

- メリット
 - 外部委託の場合
 - PCリテラシー授業の内容・評価基準は統一
 - 講師の選定等の負担がない
 - 講師の交代を可能としているので休講がない
 - 大学都合や悪天候による休講の補講で講師の代替がきく
- 課題
 - 委託先が1企業のためリスク分散が必要
 - 科目マネージャーの依存度が高い
 - 知識講義科目を必修レベルしたい
- 今後の方針
 - 2020年度から、経済学部が改組のため、共通教育としての情報系講義科目を新設、内容はGEに合わせる予定（全員履修を推奨）
 - 2020年度に共通教育が4年目を迎えるので、全体の見直しをする